

日本放送協会

会長 舩井 勝人 様

由利公正を主人公とした幕末明治の福井を
舞台としたNHK大河ドラマを誘致する
要望書

平成27年11月17日

福井県大河ドラマ誘致推進協議会

貴協会におかれましては、幅広い視聴者に愛される質の高い番組や次の世代の育成に役立つ番組等の制作に日々取り組まれ、公共放送としての使命を全うされていることに、深く敬意を表します。

特に、NHK大河ドラマは、壮大なスケールと新たな視点で主人公等の人物像やエピソード、地域の歴史をクローズアップすることで、現代の我々へ共感するメッセージを送り、感動を与え、国民から大きな支持を得る人気番組であると認識しております。

さて、私たちの住む福井県は、今日まで様々な分野で活躍し、業績を残した人物を多く輩出しております。こうした人物にスポットを当て、その業績や生き方等を学び広く伝えるとともに、郷土の誇りとして次の世代に継承していくことは、今に生きる我々に課せられた大きな使命と考えております。

このため、郷土の歴史上の人物を主人公とし、本県を舞台とした大河ドラマを実現することを目的とし、関係者が一堂に会して誘致活動等を行う組織として「福井県大河ドラマ誘致推進協議会」を今月13日に設立いたしました。

この協議会において、近代日本の幕開けに活躍した本県出身の偉人である「由利公正」を主人公候補として決定いたしました。

3年後の平成30年は、明治維新150年の記念の年であります。

明治維新といえば、西郷隆盛や木戸孝允等が有名ですが、同時期には本県においても、由利公正のほか松平春嶽や橋本左内、横井小楠、梅田雲浜など、これら立役者にひけをとらない活躍をした人物が数多くいます。

特に、由利公正については、福井藩での藩財政の立て直しに功績があったことが認められ、坂本龍馬の推挙を得て、明治新政府に徴士参与として登用されました。また「五箇条の御誓文」の草案を起草するとともに、日本初の全国紙幣である太政官札を発行して新政府の財政の基礎を築き、その後も、廃藩置県後の初代東京府知事として、銀座のまちづくりなどを進めるなど、別紙のとおり全国各地で多くのエピソードを有しております。

また、福井藩と国の両方で活躍し、「民富めば国富む」を信条とし、地方を豊かにすることで国を豊かにすることを目指した人物であります。こうした生き方、考え方はまさに今日の地方創生の目指す姿に通じるものであると考えます。

我々の熱い想いをご理解いただき、明治維新150年の記念の年である平成30年の放送に当たっては、ぜひ由利公正を主人公とした幕末明治の福井を舞台とした大河ドラマを実現していただきたく、要望いたします。

平成27年11月17日

福井県大河ドラマ誘致推進協議会
会長 福井県知事 西川 一誠

別紙

1 「五箇条の御誓文」の草案を起草

交流の深かった坂本龍馬が新政府の方針として創った「船中八策」をさらに吟味し著した「議事之体大意」が、明治新政府が公布した国家の基本方針である「五箇条の御誓文」の草案となりました。

2 わが国最初の全国通用紙幣「太政官札」を発行

由利公正が建議し、慶応4年5月から明治2年7月まで発行されました。これにより明治政府の殖産興業諸改革の莫大な費用は賄われ、国家経済は成長路線に乗り、廃藩置県や地租改正も可能になりました。

3 東京不燃化計画の策定・実行

廃藩置県後初の東京府知事に就任後の明治5年2月の大火で約5千戸、28万余坪を焼失したことを受け、抜本的な都市改造が必要だと考え、銀座の街路を広くすることや不燃性の煉瓦建築にするなど、大規模な不燃性都市化計画を提案・実現しました。

4 民撰議院設立の建白

明治7年1月、板垣退助、副島種臣、江藤新平らとともに、民撰議院の設立建白を行いました。

5 多彩な才能

文武両道で、剣道は真影流、槍は無辺流、砲術は西洋流の新式砲術で、それぞれ免許皆伝の腕前を誇る一方、幕末を代表する福井の歌人、橘曙覧の門下生として短歌を学びました。

また、乗馬の名手であり、福井藩名物の「馬威し」に19歳で見事優勝したことが、藩主松平春嶽の目に留まりました。

さらに、由利公正が考案した新型へっつい（かまど）が、福井県下で「三岡へっつい」と呼ばれ、昭和初期まで用いられました。